

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 富屋 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問調査)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	15人	算数	15人	理科	15人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	19人	算数	19人	理科	19人
------	----	-----	----	-----	----	-----

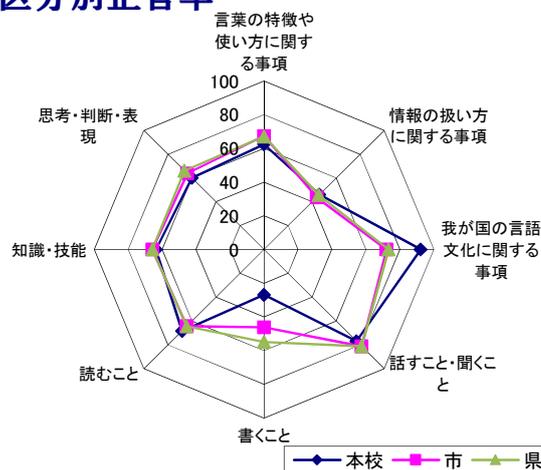
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	62.4	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	46.2	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	92.3	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	76.9	81.2	81.2
	書くこと	26.9	46.2	54.9
	読むこと	68.3	64.3	64.5
観点	知識・技能	63.6	65.7	65.7
	思考・判断・表現	60.1	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

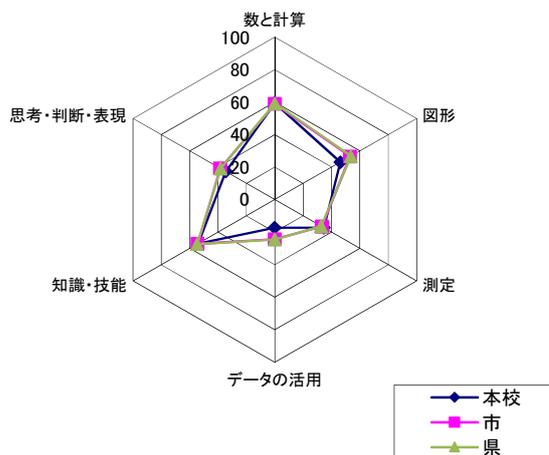
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ問題では、市の平均を上回っている。 ○漢字を正しく読む問題では、正答率が100%だった。 ●漢字を正しく書く問題では、市の平均を大幅に下回った。	・漢字の学習については、朝の学習の時間や、家庭学習、AIDリルなどを活用して繰り返し書く練習をし、漢字の書きの定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○例文で用いられた語句の意味を選択する問題では、市の平均を上回っている。	・授業で意図的に漢字辞典を使う機会を設けたり、日常的に国語辞典を使用できるような環境を整えたりして、さらに定着を図っていく。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字の部首を答える問題の平均正答率は、市の平均を大きく上回っている。	・新出漢字を学習する時間には、引き続き部首を意識しながら、学習するよう指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○参加者の発言の内容に着目し、司会者の発言として適するものを選ぶ問題では、市の平均を上回っている。 ●ある意見について、自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題は、市の平均を大幅に下回っている。	・学級活動の時間との関連を図り、司会の進め方を体験する機会を引き続き設定する。 ・学校生活の中で相手の話をしっかり聞く習慣をつけたり、疑問に思ったことを質問したりして、自分の考えを、理由を挙げながら話せるよう指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を大きく下回っている。 ●指定された長さで文章を書くことや、段落の役割について理解し、段落構成で文章に書く問題の正答率が市の平均を大きく下回っており、無回答の児童も約4割見られる。	・無回答の児童が多く見られるため、文に対する抵抗感をもつ児童には、短い文を書く機会を設定して、苦手意識を解消する支援を継続して行う。
読むこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを文章中の会話文で、話している内容に適するものを選択する問題の正答率は、市の平均を上回っている。 ●登場人物の気持ちを文章から選択する問題の正答率は市の平均を下回っている。	・物語文の学習では、場面ごとの登場人物の気持ちがかかる文に着目させたり、全体を通して登場人物の気持ちについて話し合ったりすることにより、読解力を高めたい。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.4	58.9	59.2
	図形	46.2	53.0	53.7
	測定	34.6	33.1	32.6
	データの活用	17.3	24.4	24.6
観点	知識・技能	54.2	54.3	54.7
	思考・判断・表現	34.6	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

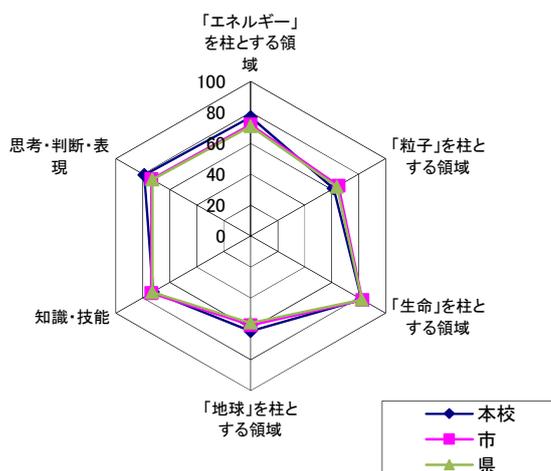
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は県や市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○数と計算については、県や市の平均よりやや上回った。大きな数、分数、少数、数量の関係では、県や市の平均を大きく上回った。</p> <p>●計算のしかたの説明や問題にあった文章を選ぶものに関しては県や市の平均を大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習や家庭学習等で習熟を図ると共に、今後も学力向上週間を設けるなどして基礎基本の定着を図る。 少人数指導担当教諭と連携し、一人一人の学習の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。
図形	<p>平均正答率は県や市の平均より大きく下回った。</p> <p>○球の性質を理解している児童が多く、県や市の平均をやや上回った。</p> <p>●円の性質を利用した作図の問題や二等辺三角形の性質を理解する問題では、県や市の平均を大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習等で、基礎基本の定着を図る。 基礎基本の問題を解くばかりでなく、応用問題にもチャレンジし、その考え方に慣れていこうプリント等で習熟を図る。 用語の意味を理解するだけでなく、意味をきちんと理解させ、その上で活用できる力を身につけさせる。
測定	<p>平均正答率は県や市の平均より上回った。</p> <p>○道のり、はかりの読み取り、重さの単位に関する問題では県や市の平均を上回った。</p> <p>●時間と時刻の問題では、県や市の平均を大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物を教材として取り入れ、日常生活と学習内容を関連して考えられるようにする。 算数の学習だけではなく、日常生活の中で、重さ、長さ、時間などを話題にすることで、量感に対して意識を向けていく。
データの活用	<p>平均正答率は県や市の平均より大きく下回った。</p> <p>●グラフを読み取る問題では、県や市の平均より大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフなどは、理科や学級活動など他教科や領域でも読み取る、書く、などの機会を捉え、活用していけるよう指導する。 教科書の発展的な問題や調査問題等を用いて、学習したことを活用して解決を図るような問題場面や学習課題を意図的に設定する。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.9	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	61.5	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	82.1	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	61.5	57.7	56.2
観点	知識・技能	72.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	78.9	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○「風やゴムのはたらき」「磁石の性質」についての設問では、おおむね市・県の正答率を上回った。</p> <p>○「電気を通すもの」を選ぶ設問では、100%の正答率であった。授業において、様々な実験を通して理解を深めた成果と考えられる。</p> <p>●「音の振動と伝わり方」についての設問では、市・県の正答率を下回った。「トライアングルを手でにぎると音が止まる」理由について短答式で回答する設問では、市・県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・実験を通して体験的に学習した内容については、しっかりと知識の定着が図れていると考えられる。今後も、根拠をもって予想を立て、結果や考察までの授業の流れを通して、体験的に学習できる場を多く設定し、児童の興味・関心を高めながら学習に取り組めるよう指導していく。</p> <p>・実験の予想や結果の考察において、自分の考えをもって言葉で表現したり、児童同士で意見の交流できる場を意図的に設定したりして、学習内容の理解を深められるようにしていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○「ものの重さ」の、同じ体積とものの種類を変化させた場合の重さの変化について、表と関連させて考える設問では、市・県の正答率を上回った。</p> <p>●「ものの重さ」の、形を変化させたものの重さについて問う設問では、市・県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・実験の中で、条件を変えて予想を立て、結果を比較する学習活動を多く取り入れ体験的に学ぶ活動を通して、知識や技能の定着を図っていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○「植物の育ち方」や「昆虫の生態」についての設問では、おおむね市・県の平均正答率を上回っている。特に「植物の体のつくり」「昆虫のすみか」についての設問では100%の正答率であった。</p> <p>●いろいろな種類の昆虫の育ち方から違いを捉える設問では、市・県の正答率を下回った。</p> <p>●「虫眼鏡の正しい使い方」についての設問では、市・県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・植物や昆虫等を実際に育てる活動を継続して行い、実践的に学べる場を意図的に設定していく。また、その結果を表や図・言葉を使ってまとめる活動を多く取り入れ、図や表から結果や内容を読み取ることができるよう指導していく。</p> <p>・日常目に行っていることを学習と関連付けて再確認していけるように、実験や観察では、気が付いたことや分かったことをノートに記録する習慣を身に付けさせる。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○「かげと太陽の動き」についての設問では、市・県の正答率を大きく上回った。太陽とかげのうごきについて、実験を通して理解を深め、知識の定着が図れた成果と考えられる。</p> <p>●「方位磁針の正しい使い方」についての設問では、市・県の正答率を下回った。</p>	<p>・太陽やかげの向きについて、方位磁針を使って観察・実験に取り組む際は、同じ観察用紙を使用したり結果を記入する向きを統一したりして、子供が結果を整理しやすいよう配慮しながら行えるよう指導していく。</p> <p>・日々の生活体験と関連付けて考える授業や問いを取り入れ、日頃から科学的な現象に対する興味・関心を高められるようにしていく。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答の割合は県の平均を大きく上回っており、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」や「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の項目についても、県の平均を上回った。ペアや小グループでの話し合い活動や、人前で話す機会などを積極的に授業に取り入れたことで成果が見られたと考える。

○「次の教科などの学習は将来のために大切だと思いますか」の設問において、国語、社会、算数、理科、総合と、すべての教科で県の平均をすべて上回った。学習内容や学ぶことが将来のために大切であることを理解し、学習に取り組んでいることがわかる。

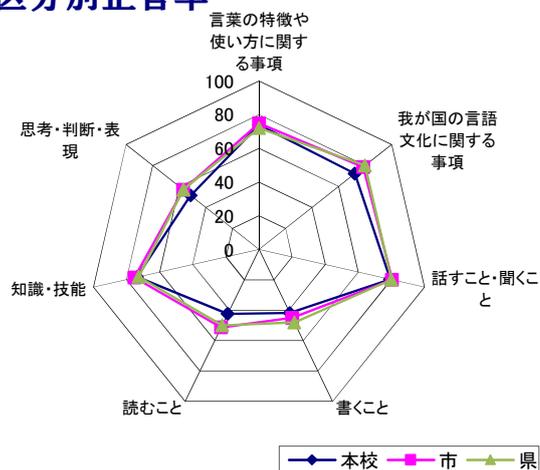
○「自分も持っている能力を十分に発揮したい」や「家の人と将来のことについて話すことがある」の肯定的回答の割合は県の平均を大きく上回っている。キャリア教育の観点から見ても、将来の目標等を家庭で共有している事で、自己肯定感の向上につながると考えられる。

●「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答の割合は県の平均を上回っているのに対し、「家で自分で計画を立てて勉強している」や「家で学校の授業の予習をしている」、「家で学校の授業の復習をしている」の肯定的回答の割合は県の平均を大きく下回っている。予習や復習をすると授業の理解度が深まり、学んだことの定着につながることを伝え、出された課題に加え、自分自身の課題点を補う自主学習が定着していけるよう、声を掛けていく。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	73.9	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	72.2	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	79.2	80.4	80.0
	書くこと	41.7	45.1	48.0
	読むこと	42.4	51.3	50.0
観点	知識・技能	73.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	51.4	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

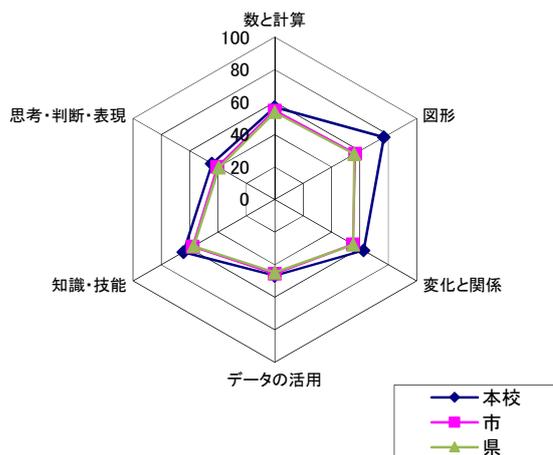
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均と同等、県の平均をやや上回っている。</p> <p>○漢字を正しく読む問題では、正答率は100%のものも多く、市や県の平均を上回っていた。</p> <p>●漢字の書き取りや連体修飾語に関する問題の正答率は県や市の正答率を下回っている。</p>	<p>・漢字の学習については、朝の学習や家庭学習・Aドリルなどを活用したり、ミニテストなどを定期的に行ったりしてさらに定着を図る。</p> <p>・修飾語の問題については、授業中に意図的に取り上げ学習したり、練習問題を解いたりして繰り返し学習する機会を意図的に設ける。</p>
情報の扱いに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	<p>●慣用句をの正しい使い方を問う問題では、県や市の平均を下回っている。</p>	<p>・ことわざ、慣用句などについては、その意味やどのような場面で使うのかを理解させ、正しい使い方ができるようにしていく。</p> <p>・語彙数を増やし、日常生活で使うことができる言葉を増やしていくため、本や新聞に慣れ親しむ機会を意図的に作っていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均と同等、県の平均をやや下回っている。</p> <p>○話の中心を捉えるための話し手の工夫を捉える問題では、県や市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●伝えたいことの中心を捉えることができるかを問う問題や司会者の役割を果たしながら、発言をもとに考えをまとめる問題では、県と市の平均を下回っている。</p>	<p>・日々の授業において、話したり聞いたりするときのポイントを明確にし、話したり聞いたりする際の視点を理解することができるようにする。</p> <p>・自分の意見を話したり、友達の意見を聞いたりする活動を各教科で設定し、筋道を立てて話す能力や相手の意図をつかみながら聞く能力を育てる。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市や県の平均を下回っている。</p> <p>●指定された長さや2段落構成で文章を書く設問で、県や市の平均を大きく下回っている。また、無回答の児童が3割程度いることから、条件が設定されている文章を書くことに課題が見られる。</p>	<p>・文章を書くことに苦手意識がある児童が見られるので、各教科で振り返りなど文章を書く機会を意図的に設定するようにする。</p> <p>・新聞学習を取り入れ、記事の内容を読み取ったり、記事に対する自分の考えを書いたりする活動を取り入れる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市や県の平均を下回っている。</p> <p>●物語文、説明文の設問では、すべての設問で県や市の平均を下回っている。特に、叙述を基に文章の内容を捉える問題は、県や市の平均を大きく下回っており、文章の内容の読み取りに課題が見られる。</p>	<p>・物語の学習では、登場人物の言動だけでなく、場面の様子や移り変わりなどの叙述にも着目させて読み取ることができるようにする。</p> <p>・説明文の学習では、叙述を基に大切な言葉を見つけながら内容を読み取り、文章の内容を理解させるとともに、段落相互の関係を意識させ、文章の構成に気付かせたい。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.9	54.9	53.7
	図形	76.9	56.6	56.1
	変化と関係	62.5	55.1	55.2
	データの活用	46.7	45.5	44.8
観点	知識・技能	64.4	57.8	57.2
	思考・判断・表現	44.4	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

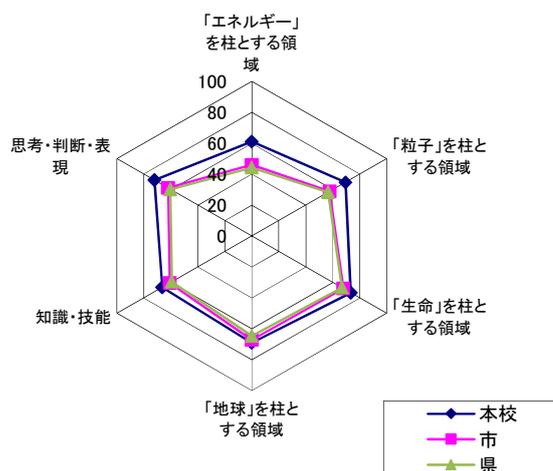
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○小数第一位÷整数＝小数第一位の計算ができるかどうかをみる問題は、市や県の平均正答率を大きく上回った。</p> <p>○同じ大きさの分数の組み合わせを選ぶ問題は、市や県の平均正答率を大きく上回った。</p> <p>●除法の性質を利用した計算のくふうについては、市や県の平均正答率を下回った。</p>	<p>・小数の大きさを比較する際は、小数を構成する単位に着目させ、数直線の目盛りを読んだり位取り表を活用したりしながら、大きさを捉えられるよう指導していく。</p> <p>・小数の学習全般を通して、既習の考え方を想起させながら式や図を用いて課題に取り組めるよう、指導していく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市や県の平均を上回っている。</p> <p>○180度より大きい角の大きさの求め方を理解しているかどうかをみる問題は、市や県の平均正答率を大きく上回った。</p> <p>○三角定規の角度を理解しているかどうかをみる問題は、市や県の平均正答率を大きく上回った。</p>	<p>・三角定規の角の大きさや、分度器の使い方など、基礎的基本的な図形学習の内容を定期的に確認し復習させることで、確実な定着を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市や県の平均を上回っている。</p> <p>○割合を使った比べ方についての問題は、市や県の平均正答率を上回った。</p> <p>●2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて説明することができるかどうかをみる問題は、市や県の平均正答率を下回った。</p>	<p>・割合の学習においては、もとにする量とそれを1とみたときのもう一方の量に当たる数がどれかを、文章の中から正しく見つけることや、問題の場面を線分図や数直線などの図に表し、求め方を考える機会を設けることで、基礎学力の定着を図る。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○折れ線グラフから、必要なことを読み取ることができるかどうかをみる問題は、市や県の平均正答率を上回った。</p> <p>●グラフから読み取った数の変化の様子を説明する問題は、市や県の平均正答率を下回った。</p>	<p>・今後も継続的に、グラフや二次元表を読み取る学習活動を意図的に取り入れ、データを二つの観点から分類整理する仕方をより一層定着させる。</p> <p>・生活の中でグラフから変化の様子を説明するような場面を意識的に設ける。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	61.1	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	69.4	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	73.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	69.1	67.2	64.6
観点	知識・技能	66.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	72.2	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○いずれの設問においても、正答率が市の平均及び県の平均を上回った。特に、簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える問題では市・県の平均を30ポイント程度上回っており、特に学習内容が定着できていると言える。</p> <p>●並列つなぎの回路に流れる電流の大きさが乾電池一個分の時と同じであることを選択式で答える問題では、直列と並列の区別がついていないと思われる誤答の割合が比較的大きく、課題がみられる。</p>	<p>・児童によっては乾電池を日常生活の中で使っていないと思われることも多く、限られた授業時間の中ではあるが、より体験を重視した学習活動を提供していく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○ほとんどの設問において、市の平均及び県の平均を上回った。特に、水が沸騰して出てくる泡について記述式で答える問題では約20ポイント上回っており、学習内容が定着している様子が見られた。</p> <p>●温められたやかんから出ている白い煙のようなものが湯気で、液体であることを答える問題では、湯気を気体と誤答した割合が市や県と比べて約7ポイント上回った。</p>	<p>・気体と液体、固体といった状態変化は児童の感覚的にとらえにくい内容であるため、実験を通して分かったことを文章で表現する経験を積むなどして正しく理解しているか確認し、正しい理解へ導いていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○領域全体の正答率を市や県と比べると、6ポイント程度上回っており、学習内容はおおむね定着していると言える。</p> <p>●骨と筋肉に関する2つの設問では、いずれも市や県の平均を5から8ポイント下回った。</p>	<p>・骨と筋肉の学習においては、筋肉が「ちぢむ」「ゆるむ」という表現が児童の日常生活であまり使われず、また、自分の体の中であっても、関節を曲げるときにどの筋肉を動かしているかを意識しにくいことが誤学習につながっていると考えられる。模型作りなどの体験的な学習を通して定着を図る。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○市や県に比べて領域全体の正答率が高い。</p> <p>●他の領域と比べると正答率の差は小さくなっており、本校の児童が苦手としている領域だと言える。</p> <p>●星の色の違いについて答える問題では、正答率が市の平均と比べて約14ポイント下回っており、課題がみられる。</p>	<p>・星の色に関する学習では、星の色と温度の関係を直接体感的に学ぶことが難しいこともあり、教師の説明や動画教材などによる学習が多くならざるを得ない。ガスの火力と炎の色の関係など、児童の身近な体験から正しい理解につなげられるよう指導していく。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の設問の肯定的回答は、市や県の平均を大きく上回っている。また、「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」の設問では、肯定的回答が100%を示していることから、今後も、一人一人の学ぶ姿に目を配りながら、児童が主体的に学習に取り組むことができるように支援していきたい。

○「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」の設問の肯定的回答は、市や県の平均を大きく上回っている。今後も学校行事などを通して、結果だけではなくそこまでの過程を大切に扱い、達成感を味わうことができるようにしていく。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の設問の肯定的回答は、市や県の平均を大きく上回っていることから、自己有用感を感じている児童が多いことが伺える。今後も、学級の係活動や当番活動等だけではなく、委員会などの活動を通して、成功体験を重ねながら自己有用感をさらに高めていくことができるようにしていく。

○「毎日、朝ごはんを食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きを心掛けている」の設問の肯定的回答は、市や県の平均を上回っており、規則正しい生活を送っていることが伺える。今後も、家庭と連携を取りながら、基本的な生活習慣を身に付けることができるようにしていく。

●「学校の授業時間以外の勉強時間」についての設問では、「30分以上1時間未満」と回答している割合は、市や県の平均を10%程度上回っている。学習時間についてだけではなく、家庭学習の内容について紹介するなどして、家庭学習の充実を図っていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」という設問に、「むずかしいと感じる」と回答した割合は、市や県の平均を大きく上回っている。自分の考えはもっているのだが、それをどのように書けばよいのか分からないという書くことへの苦手意識が伺える。各教科で自分の考えを書く場を意図的に設定し書く機会を増やしたり、書く方法を伝えたりしていくことで、苦手意識を減らし、自信をもって自分の考えを書くことができるようにしていく。

●インターネットの使用時間や1日のゲーム時間、テレビや動画などの視聴時間についての設問では、個人差はあるが、長時間視聴したり、使用したりしている状況が見られる。養護教諭や家庭と連携を図りながら、長時間の使用が体や成長に及ぼす影響についても指導していく。

宇都宮市立富屋小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
見通しをもって主体的に取り組む学習指導の工夫	学習のねらいや課題を明確にした授業構成の工夫と、自力で解決に取り組む場の確保。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問への肯定回答率は4・5年ともに県や市の割合を上回っているが、「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」の肯定回答率は、県や市の割合と同等である。
分かりやすく伝える力や、正確に受け止め学び合う力を育てる工夫	一人一人の思いや願いをもとに、共通の視点をもって話し合うことができるよう、事前に自分の考えを書かせることで、伝える力の向上を図る。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の質問への肯定回答率は4・5年ともに県や市の割合とほぼ同等か上回っている。反面「自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の肯定回答率は4・5年ともに県や市の割合を上回っており、書くことへの抵抗を感じている児童が多いことが伺える。